

兵庫県立大学 先端医療工学研究所（仮称）の整備 [県立はりま姫路総合医療センター（仮称）教育研修棟内]

1 趣旨

県立はりま姫路総合医療センター（仮称）の開設にあわせ、県立大学が長年にわたり積み重ねてきた医工学連携の実績を活かし、医療関連機器の研究開発やイノベーションなどに貢献する附置研究所として、先端医療工学研究所（仮称）を整備する。

本研究所では、県立大学が有する工学、理学、看護学、環境人間学、情報科学などの分野の知見・技術シーズを背景に、医療機関、産業界、自治体と協力し、医療関連機器、デジタルヘルスなどの研究開発をさらに加速化させていく。



県立はりま姫路総合医療センター教育研修棟完成予想図

2 背景

- (1) 産業界において、医療関連分野への進出ニーズが高まっており、既存の技術シーズを活かした共同研究や製品開発に取り組む動きが広がっている。
- (2) 医療関連分野の研究（医療関連機器、デジタルヘルス、素材開発など）に関して、分野横断的、学際的なイノベーション創出の動きが強まっている。
- (3) 成長が期待される医療関連分野で役立つ技術・能力を身に着けたい、ポストコロナ社会を見据えた社会課題解決に貢献したいとの学びのニーズが高まっており、企業においても、自社の強みを医療に応用できる人材が求められている。

3 研究所の概要

- (1) 場所 県立はりま姫路総合医療センター教育研修棟 3階
- (2) 面積 1,436 m²
- (3) 整備内容 研究室、実験室、講義室 等
- (4) 開設時期 令和4年4月（予定）

4 県立大学における医産学連携活動の経緯

- | | |
|----------|---|
| 平成23年 4月 | 工学研究科に医療健康情報研究センターを設置 |
| 平成28年 4月 | 先端医工学研究センター（AMEC）／姫路サテライトラボ（姫路ターミナルスクエア 4階、姫路駅前）を設置 |
| 平成28年 9月 | 新病院と隣接した医産学連携拠点の整備の決定 |
| 令和元年 4月 | 学長特別補佐（医工学教育研究推進担当）の設置
シミュレーション学研究科 畑 豊教授 |
| 令和 3年 4月 | 先端医療工学研究所（仮称）設置準備室の設置 |

5 令和3年度の取り組み

先端医療工学研究所（仮称）設置準備室を設置し、令和4年4月をめどに、先端医工学研究センター（AMEC）の機能を移転させ、規模、研究設備を拡充したうえで、新病院に隣接した附置研究所を開設する。

また、県立大学が有する、工学、理学、看護学、環境人間学、情報科学などの分野の知見・技術シーズを活かし、同研究所をオープン大学院〔医療健康科学技術大学院（仮称）〕として位置づけ、医療関連機器、デジタルヘルスなどの分野における人材育成に取り組む準備を進める。

※ オープン大学院の考え方

工学、理学、看護学、環境人間学、情報科学研究科が医療関係分野の科目を提供し、全研究科共通で履修できる科目群とする。当該科目は各研究科における修了単位として認定される。取得できる学位の名称は各研究科の学位名称とする。

(1) 研究体制

- ① 附置研究所としての整備
- ② 研究室の配置（企業との共同研究講座等も含む）
- ③ 県立病院、神戸大学、獨協学園との連携強化
- ④ 姫路市など自治体と連携したデータ解析の実施準備

(2) オープン大学院等

- ① 各研究科と連携した手法、カリキュラムの決定
・学生は所属研究科において学位を取得
- ② 認定看護管理者養成コースの西サテライトの設置
- ③ 他大学との単位互換の検討

(3) 教員体制

- ① 各研究科からの兼務教員の決定
- ② 専任教員（2人想定）の採用
- ③ 県立病院の医師等への大学身分付与

(4) 施設整備・事務体制

- ① 研究機器等の整備（予算額 229,171 千円（研究機器、備品購入費等））
- ② 基盤の構築（学内LAN・県庁WANの整備、病院系ネットワークとの調整）
- ③ AMECからのスムーズな移行（引っ越し）
- ④ 事務体制の整備（人員・規程類）
- ⑤ 広報活動

【参考】県立はりま姫路総合医療センター（仮称）の概要

1 施設計画

(1) 建設場所

姫路市神屋町(キャスティ 21 イベントゾーン「高等教育・研究エリア」内)
敷地面積：30,000 m²

(2) 構造規模等

- ① 病院棟 延床面積：59,453 m² [鉄骨(CFT)造(免震構造)・地上12階 塔屋2階]
- ② 放射線治療棟 延床面積：1,790 m² [RC造(耐震構造)、地上2階]
- ③ 教育研修棟 延床面積：8,785 m² [RC造(耐震構造)、地上5階]

2 新病院の基本的方針（主な特徴）

(1) 高度専門・急性期医療の提供

- ・両病院の循環器疾患医療、救命救急センター機能等、専門性の高い医療を継承・発展させる。
- ・高度専門・急性期医療を中心とした政策医療の播磨姫路圏域における中核的な医療機関を目指す。
- ・圏域の公立病院、民間病院等と連携・協力し、地域医療の中心的役割を果たす。

(2) 救急医療の充実

- ・総合的な診療機能を活かし、成人を中心とした幅広い疾患に対する救急医療の充実を図る。

(3) 質の高い診療・教育・研究の実施

- ・質の高い診療・教育・研究を行い、医師・医療従事者が集まるリーディングホスピタルを目指す。
- ・診療・教育・研究活動の成果を広く公開・還元して、疾病予防の啓発活動や予防医学の進展に貢献する。

3 病床数

736床【一般病棟720床、精神科病棟16床】
※640床で開院し、早期のフルオープンをめざす。

4 診療科目

34科



県立はりま姫路総合医療センター（仮称）イメージ



教育研修棟工事風景